

## 畑雑草の幼植物 (12) 冬生一年生イネ科

(独)農業・食品産業技術総合研究機構 中央農業総合研究センター 浅井元朗

日本全国の畑地で冬生一年生イネ科草種として、スズメノカタビラ *Poa annua*、スズメノテッポウ *Alopecurus aequalis* が最も代表的である。幼植物時の形態がスズメノテッポウによく似る草種として、セトガヤ *A. japonicus*、カズノコグサ *Beckmannia syzigachne*、ヒエガエリ *Polypogon fugax* がある。

イネ科の幼植物は葉身の抽出形態、葉鞘の毛の有無、葉耳の有無と形状、葉舌の形態などが識別の形質になる(浅井 2002)。葉身は2つ折れ(写真-1左)あるいは巻いて抽出する。2つ折れで抽出する代表的な種群がスズメノカタビラを含むイチゴツナギ属であり、葉身の先端が舟の舳先状(写真-1右)となるのもこの属の特徴である。他に葉身が2つ折れで抽出する種群にドジョウツナギ属、カモガヤなどがある。スズメノカタビラは日本の冬の畑地など攪乱地で最も広く生育する。冷涼な芝地では多年生で匍匐型の変種ツルスズメノカタビラ var. *reptans* が見られる。国内に生育する同属で、人里に多い種には、牧草、芝草として広く利用され、逸出も多いナガハグサ(ケンタッキーブルーグラス) *P. pratensis* がある。オオスズメノカタビラ *P. trivialis* は畦畔など草地に多く、しばしば麦畑にも侵入する。ツクシスズメノカタビラ *P. crassinervis* は西日本の野菜畑や植え込みなどに多い。

スズメノカタビラは植物体が明緑色で全体無毛、地際から旺盛に分げつする(写真-2左, 5の左)。葉舌は白い膜質で先端は切形である

(写真-2右)。スズメノカタビラは葉身、葉鞘とも短く、植物体は小型であるのに対し、スズメノテッポウは葉身、葉鞘とも長く、葉鞘は紫紅色を帯びる(写真-5の右)。スズメノカタビラは盛夏以外のほぼ通年開花個体が見られる(写真-4)。

スズメノテッポウ、セトガヤ、カズノコグサ、ヒエガエリはいずれも葉身が線形で巻いて抽出し、葉鞘含め全体無毛、葉耳は無く、葉舌も膜質という特徴が酷似し、幼植物での識別は難しい(写真3, 6, 7, 8)。いずれも湿った土地に生育し、関東以西に多い。同じ葉齢の植物体で比較すると、セトガヤ(写真-6左)はスズメノテッポウに比べ大型である。カズノコグサ(写真-7左)は全体が明緑色で、葉身はやや幅広い。ヒエガエリは葉身が短く、直線的である(写真-8左)。スズメノテッポウ(写真-3右)、セトガヤ(写真-6右)、カズノコグサ(写真-7右)の葉舌は全縁であるのに対し、ヒエガエリの葉舌の縁は歯牙となり、葉身基部は円い(写真-8右)。

幼植物の形態はよく似るが、出穂後の識別は容易である(写真-9~13)。このうち、スズメノテッポウとセトガヤの小穂は同じ構造であるが、開花時の葯がスズメノテッポウはオレンジ色(写真-14左)、セトガヤの葯は白色で(写真-14右)、芒が長い(写真-11)。

参考文献: 浅井元朗 2002. 麦圃に侵入するイネ科雑草の生態と葉による識別. 植調 36(4), 131 - 137.



写真-1 スズメノカタビラ,  
左: 3葉期, 右: 葉身先端。

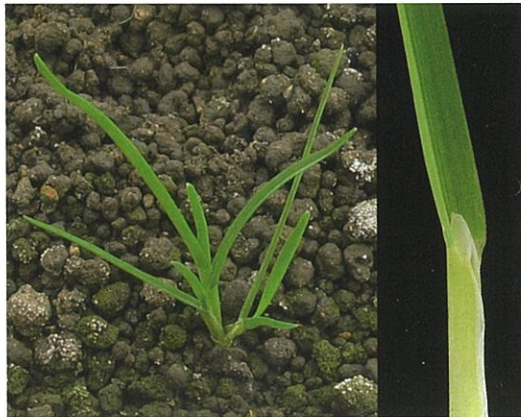


写真-2 スズメノカタビラ,  
左: 分けつ始めの幼植物, 右: 葉舌。



写真-3 スズメノテッポウ, 左: 幼植物, 右: 葉舌。



写真-4 スズメノカタビラ成植物。



写真-5 スズメノカタビラ (左) とスズメノテッポウ (右)  
の生育中期。



写真-6 セトガヤ, 左: 幼植物, 右: 葉舌。



写真-7 カズノコグサ, 左: 幼植物, 右: 葉舌。 写真-8 ヒエガエリ, 左: 幼植物, 右: 葉舌。



写真-9 スズメノカタビラの  
小穂。



写真-10 スズメノテッポウの  
小穂。



写真-11 セトガヤの小穂。

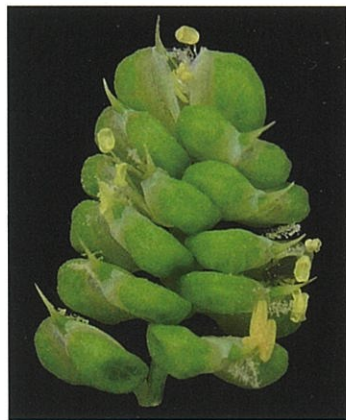


写真-12 カズノコグサの小穂。



写真-13 ヒエガエリの小穂。



写真-14 開花時の比較, 左: スズメノテッポウ, 右: セトガヤ。